

---

## 2. <水球陣>関東学生リーグ第2戦

H26.5.31 対慶應義塾大 @専修大学生田プール

東大	2	3	2	2	計9
慶應大	2	6	6	5	計19

得点者：浪間(4)、池亀(1)、石田(1)、梶原(3)

インカレ出場のためには上位リーグで倒さなければならない格上の相手に対して、現時点でどこまで食い下がるかが試される一戦である。慶應は東大よりも泳力やシュート力が勝り、選手層も厚いため、いかに失点を抑えロースコアゲームに持ち込むかがポイントだ。

### 第1ピリオド

東大がセンターボールを取り試合開始。藤目のシュートが止められ、カウンターで先制点を取られる。しかし、池亀のカットインにより相手が退水、池亀のパスに石田があわせ同点に追いつく。キーパー疋田の好セーブなどで相手の攻撃をしのぎ、梶原が退水セットで相手のハンドアップに当てて得点し、リードを奪う。しかし、ボールキープミスからのカウンターで失点し、山田の誘発した退水のチャンスも活かしきれず、同点でこのピリオドを終える。

### 第2ピリオド

ピリオド開始早々、山田がカットしたボールを自陣ゴール前で谷口がキープしきれず先制される。池亀が誘発した退水で梶原がミドルを決め同点とするが、フローティングシュートや退水による失点が続く。東大も浪間を中心に攻撃を重ね、池亀や梶原が得点するが、ハンツースhootを決められ3点差をつけられてしまった。

### 第3ピリオド

開始直後、小池の退水により訪れたピンチは疋田の好セーブにより切り抜ける。しかし、浪間を中心とする再三の攻撃も功を奏さず、カバーミスからのカウンターで失点する。浪間のフローティングからの得点も単発に終わり、パスミスからのカウンターで失点を重ね、点差を7点に広げられてしまった。

#### 第4ピリオド

このピリオドは慶應の攻撃から始まる。序盤は慶應の攻撃をしのぎ、カウンターを出すも決めきれず、逆にカウンターで失点する。その後、慶應の強いプレスの前に東大はパスをうまくまわすことも出来ず、チャンスも活かさないまま、カウンターによる失点が続く。池亀のカットインからの浪間のバックシュートなどで追いつがる東大だったが、石田の不正入水による永久退水といったアクシデントもあってさらに点差を広げられ、9-19でこの試合を終える。

第2ピリオド半ばまでは失点してもすぐに取り返すといった、互角の戦いをする事ができたが、徐々に東大が体力を失っていくにつれ、地力の差が出始めた。特に慶應の厳しいプレスによってうまくパスを回せず、パスミスによるカウンターで失点というパターンが多くみられた。今後はスイムや足練といった基礎能力の向上と動いてパスをもらうなどの基本技術を磨いていかないと、上位のチームと互角には戦えないだろう。

最後になりましたが、監督をしてくださった三宅さん、試合を観に来てくださった林さん、吉田さん、岩村さん、有吉さん、圭奈子さん、裕美子さん、本当にありがとうございました。

(文責 谷口 遼)

---